

【各学科における理念】

● 経済学部経済学科 (中学校教諭一種(社会)・高等学校教諭一種(地理歴史・公民))

経済学科では、経済社会における諸現象を理論、歴史及び社会の幅広い視点から洞察し、社会の諸問題に対して経済学的な考え方を中心として自ら課題を発見し、データに基づいて分析し解決案を発信・提案する能力を身に付けた、グローバルに活躍する人材を育成することを目的としている。

教職課程においては、複雑に絡み合う経済・社会問題について経済学を中心に社会科学の視点で冷静に考察し、歴史的視点ならびにデータに基づいて分析する力を身に付け、個性豊かな幅広い教養を持った社会系教員の養成を目標としている。

【段階的目標とその計画】

<経済学科> (中学校教諭一種(社会))

履修年次		到達目標と計画
年次	時期	
1年次	前期	<p>教職課程登録前の導入として、1年次中に「教職に関する科目」の中でも基礎科目と位置付けている「教師論」「教育原論Ⅰ・Ⅱ」を履修することにより、教職課程の意義・制度及び教員の役割等を学び、教職課程への意欲を喚起するとともに、教職への適性を自己評価し、意欲のある学生を2年次の教職課程登録に導くことを目標とする。</p> <p>2年次以降計画的に「教職に関する科目」「教科に関する科目」に専念出来るよう、1年次には「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」を履修する。また、関連する内容として、学科カリキュラムの中から、成城教育の歴史や経済的な考え方の入門、社会経済現象について、理論・応用・歴史・社会政策の分野から幅広く学ぶとともに、外国史の科目を履修することにより、教科への理解・教養を深める。更に、本学の教育理念「個性尊重」を念頭に、キャリアを形成する上での必要な考え方を理論と体験からキャリアデザイン科目で学ぶ。</p>
	後期	<p>引き続き、教職課程登録前の導入として、1年次中に「教職に関する科目」の中でも基礎科目と位置付けている「教師論」「教育原論Ⅰ・Ⅱ」を履修することにより、教職課程の意義・制度及び教員の役割等を学び、教職課程への意欲を喚起するとともに、教職への適性を自己評価し、意欲のある学生を2年次の教職課程登録に導くことを目標とする。</p> <p>2年次以降計画的に「教職に関する科目」「教科に関する科目」に専念出来るよう、1年次には「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」を履修する。また、関連する内容として、学科カリキュラムの中から、経済学的な考え方の入門を学び、社会経済現象について、理論・応用・歴史・社会政策の分野から幅広く学ぶとともに、外国史の科目を履修することにより、教科への理解・教養を深める。更に、本学の教育理念「個性尊重」を念頭に、キャリアを形成する上での必要な考え方を理論と体験からキャリアデザイン科目で学ぶ。</p>
2年次	前期	<p>教職課程登録を経て、本格的に教職課程のスタートとなり、「教職に関する科目」では、2年次中に「教育史」「教育方法学」「特別活動の研究」、「教育心理学」もしくは「青年心理学」を履修することにより、教科横断的に、また、教科領域と教科外領域のどちらでも必要となる教育学や心理学の理論に基づいた実践力を身に付けていくことを目標とする。</p> <p>「教科に関する科目」は、学科カリキュラムの中から、経済学の考え方や統計学を学び、記述統計を中心に統計学的分析手法を使いこなせることを目標とする。更に、日本史、外国史及び地理学分野の科目を中心に履修して、教科を教えることを意識しながら、教科への理解・教養を深めることを目標とする。</p>
	後期	<p>引き続き、「教職に関する科目」では、2年次中に「教育史」「教育方法学」「特別活動の研究」、「教育心理学」もしくは「青年心理学」を履修することにより、教科横断的に、また、教科領域と教科外領域のどちらでも必要となる教育学や心理学の理論に基づいた実践力を身に付けていくことを目標とする。</p> <p>「教科に関する科目」は、引き続き、学科カリキュラムの中から経済学の考え方や統計学を学び、推測統計を中心に統計学的分析手法を使いこなせることを目標とする。更に、日本史、外国史及び地理学分野の科目を中心に履修して、教科を教えることを意識しながら、教科への理解・教養を深めることを目標とする。</p>
3年次	前期	<p>3年次を迎え、「教職に関する科目」では、「社会科教育法」「生徒指導の研究」「道徳教育の研究」を履修することにより、翌年度の教育実習に向けて、理論と実践力の応用を身に付けることを目標とする。特に、「社会科教育法」では、教科の指導案の作成・教育方法、授業を行う際に配慮する点等を学ぶとともに、模擬授業を行い、翌年度の教育実習に向けて研鑽を積むことを目標とする。また、「生徒指導の研究」と「道徳教育の研究」を通じて、現代の学校現場で生じている諸問題への対処、現代の生徒に要請されている道徳、倫理等についての見識を学問的実践的に蓄積することを旨とする。</p> <p>「教科に関する科目」は、2年次に引き続き日本史、外国史及び地理学分野の科目を中心に履修するとともに、日本経済や世界経済の今日的な課題について学ぶことで、自ら教授するために必要とする専門的知識・教養を更に深めることを目標とする。</p>
	後期	<p>引き続き、「教職に関する科目」では、「社会科教育法」「生徒指導の研究」「道徳教育の研究」を履修することにより、翌年度の教育実習に向けて、理論と実践力の応用を身に付けることを目標とする。特に、「社会科教育法」では、教科の指導案の作成・教育方法、授業を行う際に配慮する点等を学ぶとともに、模擬授業を行い、翌年度の教育実習に向けて研鑽を積むことを目標とする。また、「生徒指導の研究」と「道徳教育の研究」を通じて、現代の学校現場で生じている諸問題への対処、現代の生徒に要請されている道徳、倫理等についての見識を学問的実践的に蓄積することを旨とする。</p> <p>「教科に関する科目」は、2年次に引き続き日本史、外国史及び地理学分野の科目を中心に履修するとともに、日本経済や世界経済の今日的な課題について学ぶことで、自ら教授するために必要とする専門的知識・教養を更に深めることを目標とする。</p>
4年次	前期	<p>4年次を迎え、「社会系教育実習」を履修し、必要な事前指導を受けた後、教育実習校に赴く。</p> <p>各教育実習校において、教職員のご指導の下、教師に必要な基礎(知識・技術・態度)を履修し、教育に関する理解を深め、教師として活躍出来る素地を養うこと、また、生徒との関わりを通じ、教師の仕事は授業を行うことだけではなく、特別活動や課外活動の支援、学校の維持運営等にも及んでいることを理解し、教職への意欲を高めることを目標とする。</p>
	後期	<p>「社会系教育実習」での事後指導により、教育実習を振り返り、更に研鑽を積むこと、また、「教職実践演習」では教職課程の総括として、学問的知見と教育実習等を通じて得られた教科・生徒指導力、学級経営、対人関係能力という実践的見識とを統合するとともに、公共的使命に裏打ちされた教員資質の構築を目標とする。また、必修の卒業論文の作成を通じて、問題発見、分析、プレゼンテーションという教師としての必須の能力開発を行いあわせて経済的なものの考え方を現実の問題に適用する力を養う。</p>

【段階的目標とその計画】

<経済学科> (高等学校教諭一種(地理歴史))

履修年次		到達目標と計画
年次	時期	
1年次	前期	<p>教職課程登録前の導入として、1年次中に「教職に関する科目」の中でも基礎科目と位置付けている「教師論」「教育原論Ⅰ・Ⅱ」を履修することにより、教職課程の意義・制度及び教員の役割等を学び、教職課程への意欲を喚起するとともに、教職への適性を自己評価し、意欲のある学生を2年次の教職課程登録に導くことを目標とする。</p> <p>2年次以降計画的に「教職に関する科目」「教科に関する科目」に専念出来るよう、1年次には「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」を履修する。また、関連する内容として、学科カリキュラムの中から、成城教育の歴史や経済的な視点を学び、社会経済学現象についても、理論・応用・歴史・社会政策の分野から幅広く学ぶとともに、外国史の科目を履修することにより、教科への理解・教養を深める。更に、本学の教育理念「個性尊重」を念頭に、キャリアを形成する上で必要な考え方を理論と体験からキャリアデザイン科目で学ぶ。</p>
	後期	<p>引き続き、教職課程登録前の導入として、1年次中に「教職に関する科目」の中でも基礎科目と位置付けている「教師論」「教育原論Ⅰ・Ⅱ」を履修することにより、教職課程の意義・制度及び教員の役割等を学び、教職課程への意欲を喚起するとともに、教職への適性を自己評価し、意欲のある学生を2年次の教職課程登録に導くことを目標とする。</p> <p>2年次以降計画的に「教職に関する科目」「教科に関する科目」に専念出来るよう、1年次には「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」を履修する。また、関連する内容として、学科カリキュラムの中から、成城教育の歴史や経済的な視点を学び、社会経済学現象についても、理論・応用・歴史・社会政策の分野から幅広く学ぶとともに、外国史の科目を履修することにより、教科への理解・教養を深める。更に、本学の教育理念「個性尊重」を念頭に、キャリアを形成する上で必要な考え方を理論と体験からキャリアデザイン科目で学ぶ。</p>
2年次	前期	<p>教職課程登録を経て、本格的に教職課程のスタートとなり、「教職に関する科目」では、2年次中に「教育史」「教育方法学」「特別活動の研究」、「教育心理学」もしくは「青年心理学」を履修することにより、教科横断的に、また、教科領域と教科外領域のどちらでも必要となる教育学や心理学の理論に基づいた実践力を身に付けていくことを目標とする。</p> <p>「教科に関する科目」は、主に日本史や外国史、人文地理学及び自然地理学、地誌分野の概説科目を中心に履修し、関連科目では経済学ならびに統計学の考え方を講義やゼミナールを通じて学ぶことで自ら教える際の専門知識・教養、考え方を深めることを目標とする。</p>
	後期	<p>引き続き、「教職に関する科目」では、2年次中に「教育史」「教育方法学」「特別活動の研究」、「教育心理学」もしくは「青年心理学」を履修することにより、教科横断的に、また、教科領域と教科外領域のどちらでも必要となる教育学や心理学の理論に基づいた実践力を身に付けていくことを目標とする。</p> <p>「教科に関する科目」は、前期に引き続いて主に日本史や外国史、人文地理学及び自然地理学、地誌分野の概説科目を中心に履修し、関連科目では経済学ならびに統計学の考え方を講義やゼミナールを通じて学ぶことで自ら教える際の専門知識や考え方、教養を深めることを目標とする。</p>
3年次	前期	<p>3年次を迎え、「教職に関する科目」では、「地理歴史科教育法」「生徒指導の研究」「道德教育の研究」を履修することにより、翌年度の教育実習に向けて、理論と実践力の応用を身に付けることを目標とする。特に、「地理歴史科教育法」では、教科の指導案の作成・教育方法、授業を行う際に配慮する点等を学ぶとともに、模擬授業を行い、翌年度の教育実習に向けて研鑽を積むことを目標とする。また、「生徒指導の研究」と「道德教育の研究」を通じて、現代の学校現場で生じている諸問題への対処、現代の生徒に要請されている道德、倫理等についての見識を学問的実践的に蓄積することを旨とする。</p> <p>「教科に関する科目」では、日本史や外国史、人文地理学及び自然地理学分野の発展科目を中心に履修して、重要な概念を自ら説明出来ることを目標とする。また関連科目では日本ならびにグローバルな視点から経済問題を学ぶことで地理的な視点を相対化し、自ら教授する際に必要となる専門知識ならびに教養を養う。</p>
	後期	<p>引き続き、「教職に関する科目」では、「地理歴史科教育法」「生徒指導の研究」「道德教育の研究」を履修することにより、翌年度の教育実習に向けて、理論と実践力の応用を身に付けることを目標とする。特に、「地理歴史科教育法」では、教科の指導案の作成・教育方法、授業を行う際に配慮する点等を学ぶとともに、模擬授業を行い、翌年度の教育実習に向けて研鑽を積むことを目標とする。また、「生徒指導の研究」と「道德教育の研究」を通じて、現代の学校現場で生じている諸問題への対処、現代の生徒に要請されている道德、倫理等についての見識を学問的実践的に蓄積することを旨とする。</p> <p>「教科に関する科目」では、前期に引き続き、日本史や外国史、人文地理学及び自然地理学分野の発展科目を中心に履修して、重要な概念を自ら説明出来ることを目標とする。また関連科目では日本ならびにグローバルな視点から経済問題を学ぶことで地理的な視点を相対化し、自ら教授する際に必要となる専門知識ならびに教養を養う。</p>
4年次	前期	<p>4年次を迎え、「社会系教育実習」を履修し、必要な事前指導を受けた後、教育実習校に赴く。</p> <p>各教育実習校において、教職員のご指導の下、教師に必要な基礎(知識・技術・態度)を履修し、教育に関する理解を深め、教師として活躍出来る素地を養うこと、また、生徒との関わりを通じ、教師の仕事は授業を行うことだけではなく、特別活動や課外活動の支援、学校の維持運営等にも及んでいることを理解し、教職への意欲を高めることを目標とする。</p>
	後期	<p>「社会系教育実習」での事後指導により、教育実習を振り返り、更に研鑽を積むこと、また、「教職実践演習」では教職課程の総括として、学問的知見と教育実習等を通じて得られた教科・生徒指導力、学級経営、対人関係能力という実践的見識とを統合するとともに、公共的使命に裏打ちされた教員資質の構築を目標とする。また、必修の卒業論文の作成を通じて、問題発見、分析、プレゼンテーションという教師としての必須の能力開発を行いあわせて経済的なものの考え方を現実の問題に適用する力を養う。</p>

【段階的目標とその計画】

<経済学科> (高等学校教諭一種(公民))

履修年次 年次 時期	到達目標と計画
1 年次	前期 教職課程登録前の導入として、1年次中に「教職に関する科目」の中でも基礎科目と位置付けている「教師論」「教育原論Ⅰ・Ⅱ」を履修することにより、教職課程の意義・制度及び教員の役割等を学び、教職課程への意欲を喚起するとともに、教職への適性を自己評価し、意欲のある学生を2年次の教職課程登録に導くことを目標とする。 また、2年次以降計画的に「教職に関する科目」「教科に関する科目」に専念出来るよう、1年次には「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」を履修する。あわせて経済学や経営学の基本的な概念ならびに統計分析の初歩を学び自ら使いこなせることを目標とする。更に、関連する内容として、学科カリキュラムの中から、成城教育の歴史を学び、社会経済現象についても、理論・応用・歴史・社会政策の分野から幅広く学ぶ。更に、本学の教育理念「個性尊重」を念頭に、キャリアを形成する上での必要な考え方を理論と体験からキャリアデザイン科目で学ぶ。
	後期 引き続き、教職課程登録前の導入として、1年次中に「教職に関する科目」の中でも基礎科目と位置付けている「教師論」「教育原論Ⅰ・Ⅱ」を履修することにより、教職課程の意義・制度及び教員の役割等を学び、教職課程への意欲を喚起するとともに、教職への適性を自己評価し、意欲のある学生を2年次の教職課程登録に導くことを目標とする。 また、2年次以降計画的に「教職に関する科目」「教科に関する科目」に専念出来るよう、1年次には「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」を履修する。あわせて経済学や経営学の基本的な概念ならびに統計分析の初歩を学び自ら使いこなせることを目標とする。更に、関連する内容として、学科カリキュラムの中から、社会経済現象について理論・応用・歴史・社会政策の分野から幅広く学ぶ。更に、本学の教育理念「個性尊重」を念頭に、キャリアを形成する上での必要な考え方を理論と体験からキャリアデザイン科目で学ぶ。
2 年次	前期 教職課程登録を経て、本格的に教職課程のスタートとなり、「教職に関する科目」では、2年次中に「教育史」「教育方法学」「特別活動の研究」、「教育心理学」もしくは「青年心理学」を履修することにより、教科横断的に、また、教科領域と教科外領域のどちらでも必要となる教育学や心理学の理論に基づいた実践力を身に付けていくことを目標とする。 「教科に関する科目」は、学科カリキュラムの中から経済学の基礎理論や国際経済学を中心に学び、必修ゼミナールでは自ら教えることを意識しながら、教科に関連する専門科目を学び自ら重要な概念を説明出来ることを目標とする。
	後期 引き続き、「教職に関する科目」では、2年次中に「教育史」「教育方法学」「特別活動の研究」、「教育心理学」もしくは「青年心理学」を履修することにより、教科横断的に、また、教科領域と教科外領域のどちらでも必要となる教育学や心理学の理論に基づいた実践力を身に付けていくことを目標とする。 「教科に関する科目」は、学科カリキュラムの中から経済学の基礎理論や国際経済学を中心に学び、必修ゼミナールでは自ら教えることを意識しながら、教科に関連する専門科目を学び自ら重要な概念を説明出来ることを目標とする。
3 年次	前期 3年次を迎え、「教職に関する科目」では、「公民科教育法」「生徒指導の研究」「道徳教育の研究」を履修することにより、翌年度の教育実習に向けて、理論と実践力の応用を身に付けることを目標とする。特に、「公民科教育法」では、教科の指導案の作成・教育方法、授業を行う際に配慮する点等を学ぶとともに、模擬授業を行い、翌年度の教育実習に向けて研鑽を積むことを目標とする。また、「生徒指導の研究」と「道徳教育の研究」を通じて、現代の学校現場で生じている諸問題への対処、現代の生徒に要請されている道徳、倫理等についての見識を学問的実践的に蓄積することを旨とする。 「教科に関する科目」は、世界経済や政治情勢を扱う科目でグローバルな視点を学び、応用経済学の科目を中心に講義ならびにゼミナールで学ぶことで、我が国、世界の経済社会問題を理解するための考え方・専門知識を自ら説明することが出来ることを目標とする。
	後期 引き続き、「教職に関する科目」では、「公民科教育法」「生徒指導の研究」「道徳教育の研究」を履修することにより、翌年度の教育実習に向けて、理論と実践力の応用を身に付けることを目標とする。特に、「公民科教育法」では、教科の指導案の作成・教育方法、授業を行う際に配慮する点等を学ぶとともに、模擬授業を行い、翌年度の教育実習に向けて研鑽を積むことを目標とする。また、「生徒指導の研究」と「道徳教育の研究」を通じて、現代の学校現場で生じている諸問題への対処、現代の生徒に要請されている道徳、倫理等についての見識を学問的実践的に蓄積することを旨とする。 「教科に関する科目」は、前期に引き続き、世界経済や政治情勢を扱う科目でグローバルな視点を学び、応用経済学の科目を中心に講義ならびにゼミナールで学ぶことで、我が国、世界の経済社会問題を理解するための考え方・専門知識を自ら説明することが出来ることを目標とする。
4 年次	前期 4年次を迎え、「社会系教育実習」を履修し、必要な事前指導を受けた後、教育実習校に赴く。 各教育実習校において、教職員のご指導の下、教師に必要な基礎(知識・技術・態度)を履修し、教育に関する理解を深め、教師として活躍出来る素地を養うこと、また、生徒との関わりを通じ、教師の仕事は授業を行うことだけではなく、特別活動や課外活動の支援、学校の維持運営等にも及んでいることを理解し、教職への意欲を高めることを目標とする。
	後期 「社会系教育実習」での事後指導により、教育実習を振り返り、更に研鑽を積むこと、また、「教職実践演習」では教職課程の総括として、学問的知見と教育実習等を通じて得られた教科・生徒指導力、学級経営、対人関係能力という実践的見識とを統合するとともに、公共的使命に裏打ちされた教員資質の構築を目標とする。また、必修の卒業論文の作成を通じて、問題発見、分析、プレゼンテーションという教師としての必須の能力開発を行いあわせて経済的なものの考え方を現実の問題に適用する力を養う。